

# 光受寺通信

NO.198

R.7.7.1 発行

発行元 光受寺



## 特集

### 福島原発事故による 帰宅困難区域等の視察研修に参加して

令和7年6月10日(火)～11日(水)一泊二日



梅雨に入つての一回目の早朝、羽鳥駅を7時05分発の新幹線で岐阜高山教区第11組の住職アンド、名古屋から乗車した「レスキュー・スタッフ」一同の8名で出発。途中乗り換えをしながら、目的駅の大野駅には13時4分に到着いたしました。

この近辺は除染もされており、立派な駅舎に建て替えられていきました。構内には線量計が設置されており写真のような数値を示していました。

この近辺は津波で自宅を失い、妻と子供、父親を亡くしたという木村紀夫さんにレンタカーを使つて案内していただきました。

木村さんの田舎のあった場所は、現在中間貯蔵施設に含まれていますが、震災から9年の間発見されなかつたという次女の方(ゆづな)さんの遺骨の一部を手掛かりに、さらに搜索を続けながら、「語り部」として活動されてこられたのです。

移動中は山積みにされた残土と、除染作業をする人たちの姿と、放置されたままの廃屋が点在しているだけだった、殺風景が続々ばかりでした。



#### 一日目の研修を終えて宿へ

宿は双葉郡大熊町大川原地区にある地域住民の交流や、文化活動、観光復興を目的として2021年にオープンした温泉施設「ほつと大熊」に泊まりました。私は木村さんを囲んで感想や意見を話しました。

私は、木村さんを囲んで感想や意見を話しましたが、地震、津波による復興は徐々に進み、新しい公共施設や、住宅も立ち並びてるので、原発事故からの復興については、汚染された残土の処理、汚染された水処理問題が山積してしまった現実のあることの底知れぬ不安からの解放には程遠いものを感じました。  
そして、何よりも故郷に帰りたくても帰れないといった心の問題には計り知れない悲しみがあることを知りました。



14年経った今も、そのままの状態で残されていた教室と汐田ちゃんの席。



線量計  
は6.62  
を指す。



海岸の近くに立っていたかつての自宅



今は玄関の赤い敷石だけが残っている。



除染作業をする人たち

私は、汐田ちゃんが通っていたこの小学校へ行つてまいりました。小学校は高台にあることから津波の被害から逃れられましたが、今は帰宅困難区域にあることからそのままの状態にしてあります。汐田さんは震災直後迎えに来られたおじさんと田舎に向かい、津波に飲み込まれたのだといわれました。

## 一回目 伝承館から玉鏡寺へ

「未曾有の複合災害を経験し、復興への途を歩んできた福島の記録と記憶を防災・減災の教訓として未来へ繋いでゆく」を目的として建設された「伝承館」。

様々な展示物や長期化する原子災害の影響など細やかにわかりやすく多くの資料によりて、説明されていました。

その後、予定表には書かれていたのが、双葉郡楢葉町にある玉鏡寺といつ淨土宗のお寺を訪ねることになりました。

Jの住職は半世紀にわたり反原発運動を続け、8歳になくなった第三十世の早川篤雄さん。東京電力を相手に「福島原発避難者訴訟」では原告団長を務め勝訴し、東電に社長まで公式謝罪する場をつくりました。



## 今月の掲示板

「わが浪江町」

この地にいつの日か  
必ずや帰らなければならぬ  
地を這つても

帰らなければならぬ  
杖をついても  
帰らなければならぬ  
我が郷里浪江町に

根本昌幸

「わが浪江町」

Jの詩は東京電力福島第一原発事故により、故郷浪江町を離れ、令和3年74歳にして亡くなった詩人、根本昌幸さんの詩である。あれから14年経った今奥さんによつて自己前に石碑が建てられたのだと。一時帰宅した奥さんは「ようやく帰れたね」と、夫へ思いをはせられていたといつ。

福島民報 朝刊 令和7年6月11日記事より

## 伝言板の掲示。「申し入れ文」の一覧。

チリ地震級の引き潮、高潮時に耐えられない

東電福島原発の抜本的対策を求める申し入れ

二〇〇五年五月一〇日

原発の安全性を求める福島県連絡会 代表 早川篤雄

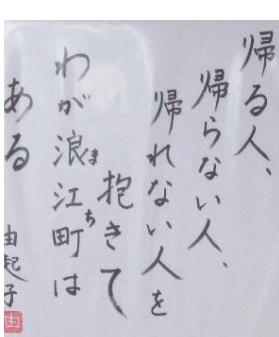
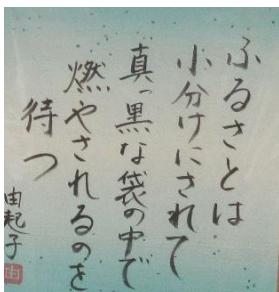
事故6年前

これまでチリ津波級によって発生が想定される引き潮、高潮に対応できないことがこれまで私たちと東電のやりとりで明らかになりました。チリ津波は一九六〇年のことで、このことは、本来、東電は承知のはずであり、福島第一原発の建設・運転に当たって、当然、対策が措置されているべきもの

です。ところが、福島原発の各原発は、これらの欠陥を放置したままに建設・運転されていたことになり、きわめて重大な事態と言わねばなりません。



被災者の悲痛な声が聞こえてくるようです。



今回の視察研修で感じられた思いが、ここで凝縮された言葉となつて表されているようでした。

今月号は、福島原発事故の記事の特集になりました。  
まだ掲載しきれないことも多々あります  
が、紙面の関係でできませんでした。機会があればまたお伝えしたいと思っています。

6月の学習会では、歎異抄学習にかわって、この原発事故の話となりました。

7月の学習会は歎異抄を学びます。

7月19日(土)

14時より

お手サロ

7月17日(木)

1時半より

光受寺にて

